

さっぽろタウンガーデナーの加藤清春さんは、樹木医や庭園管理士などの資格を持っており、現在、札幌市手稲老人福祉センターと札幌市白石老人福祉センターで園芸教室の講師を務めています。

今回は、平成17年から始めて6年目になる札幌市白石老人福祉センターの園芸教室取材させていただきました。

この日は、13名の受講者が集まりました。講義では、広範囲にいろいろなことを教えていただきました。その一部をご紹介します。

花壇には、デザインを考え秋遅くまで花の咲く宿根草を植えると良いそうです。カクトラノオは、雪が降るまで咲くのでおすすめです。

また、加藤さんがご自宅から持ってきた鉢植えのシクラメン・コウムをみなさんに見せながら、「地下の球根を掘るときは、球根を傷つけないように手で気を付けながら掘る」とか、「シクラメン・コウムは雪の下で越冬し、夏には地上部が何もなくならないので、目印に棒か何かを立てておく」「花がらは根元から取り、取った後には殺菌剤を撒く」など、詳しく説明をしていただきました。

このほか、ポインセチアや洋ランの管理方法やブドウの剪定方法など、どのお話も実用的で興味深いものでした。

10時から12時までの2時間の講義ですが、園芸の技術的なことだけでなく、韓国の花壇の歴史や風邪の予防法など、ユーモアを交えての楽しい講義に、あっという間に時間が過ぎていきました。途中の休憩タイムには、受講者のみなさんが熱心に質問したり、シクラメンの花を間近でじっくり観察したりしていました。

加藤さんの園芸教室は、楽しくてためになる、和やかな雰囲気でした。(事務局：西)



シクラメンについて説明



受講者の質問に答える加藤さん

インフォメーション

年間活動報告書の提出をお願いします

さっぽろタウンガーデナーの登録期間は、1年間(1月～12月)となっています。「活動報告書」の提出をもって、登録更新(継続)となりますので、ぜひ「活動報告書」の提出をお願いいたします。詳しくは、同封の「年間活動報告書 提出のお願い」をご覧ください。

掲載情報募集しています

イベント案内・ボランティア募集など、掲載希望の情報がありましたら、事務局にお知らせください。
情報締切: 奇数月15日(次月と次々月の情報を掲載)

さっぽろ花と緑のネットワーク登録状況

(2011年12月15日現在)

さっぽろタウンガーデナー (246名)			
中央区	41名	北区	46名
西区	12名	東区	33名
豊平区	17名	南区	25名
白石区	8名	厚別区	22名
清田区	8名	手稲区	26名
その他	8名		
花と緑のボランティア団体 (全25団体)			

【発行・編集】さっぽろ花と緑のネットワーク事務局
札幌市中央区北1条東1丁目ニューワンビル4階
財団法人札幌市公園緑化協会内
TEL: 011-251-3309 FAX: 011-211-2577
E-mail: flowers@sapporo-park.or.jp
http://www.sapporo-park.or.jp/flowers/



花と緑のネットワーク通信

No. 13 (2011年12月15日発行)

ご報告

さっぽろ花と緑のまちづくりフォーラム 2011

11月23日(水・祝)に、「さっぽろ花と緑のまちづくりフォーラム2011」を開催しました。会場には約400名というたくさんの方にご来場いただきました。シンポジウムの内容やガーデン収穫の様子をご紹介します。

シンポジウム ガーデニングからはじまる北国のまちづくり

●梅木あゆみさん 有限会社コテージガーデン代表

この20～30年の間に、眺める造園・園芸から、作って・使って楽しむガーデニングへと変化してきました。昭和30年代に園芸ブームが起こってから20年くらいは男性中心で、その後1992年にガーデニング専門誌『ビズ』が創刊され、ガーデニングが女性に広がりました。最近では食に関心のある若い世代や団塊世代など、男女ともに広がっています。

使って楽しむ「キッチンガーデン」は、ただ野菜を植えるのではなく、庭の一部として、美しく、美味しい植栽をします。「カットフラワー(切り花)ガーデン」として使い、切り花を家の中にもってくると室内と外の庭が繋がります。また「エコガーデン」への関心が高まり、自分で堆肥をつくらうという人が増えていきます。庭の恵みを利用し、剪定枝でクリスマスディスプレイなどを作って楽しむこともできます。庭と生活を融合させることを進めていきたいと思っています。

●狩野亜砂乃さん グリーンエプロンズ代表

札幌市や南区土木センターなどの助成事業を中心に、南区の緑のまちづくりに関わっています。私の役割は、活動される地域の方の希望を聞いて、植栽デザインやメンテナンス、植物利用方法を提案し、住民と行政の間の連絡調整などを行うことです。

いくつか事例を紹介します。簾舞団地町内会では、「花いっぱい実行委員会」を主体に国道に淡い色の宿根草などを植栽しています。福祉施設「この実会」の「北の沢コミュニティガーデン みんなの丘」では、サポー

ターや職員の方々などがメンテナンスをしています。8割ほどがハーブですが、収穫したものを教室で使ったり、「この実会」の方々が作業に使えるようにと考えています。ガーデンボランティア「グリーンエプロンズ」は、真駒内エドウィンダン記念公園の花壇を管理しています。

花と緑のまちづくりには「きれいな景観が生まれる」「人と人とのつながりが生まれる」「地域が活性化していく」「知識の習得や共有ができる」という4つのメリットがあることも魅力です。

●鈴木敏司さん 株式会社アトリエアク代表

「ガーデンアイランド北海道」に合わせて庭をつくらうと「イコロの森」に取り組みました。北海道の環境で育つ宿根草を生産し、庭づくりのツールを豊かにすることも目的でした。また100haの敷地内で完結する循環の仕組みを作りたいとも考えていました。

敷地内では50年程前に植えられた

カラマツ林と、炭を作っていた広葉樹林が放置された状態だったので、森に手を入れて活用して行きたいと考えました。「イコロの森」の管理棟の外壁には、このカラマツを使いました。炭も焼いており、バラ園で使っていますが、病気への抵抗力をつけてくれます。

この辺りの森の林床は、オシダやフッキソウなど多様な自生植物で覆われているのが特徴です。北海道の植物は、イギリスやオランダに渡って園芸種になって戻って来たものがたくさんあります。私たちはそもそも恵まれた場所に住んでいるのです。



シンポジウム ディスカッションから

花と緑のまちづくりを広めるには？

狩野
さん

地域の方々が何を求めているかを話合って、グリーン主体か、食べるものを植えたいのか、クラフトに使いたいのかなどをトータルに検討することが大切です。いろんな人が関われるフックのようなものを活動の中にちりばめておくと、料理が得意な人や、大根ならまかせてくれという人など様々な人が集まります。花を植え、緑を増やすのはまちづくりの一つのきっかけです。きれいにする以外にもそういうところを意識したいと思います。

梅木
さん

オープンガーデンの活動をしています、それぞれの家の緑を豊かにすることが大切です。また、キッチンガーデンやトマトなど身近な野菜の話だと、花に興味がない人にも関わってもらいきっかけになります。コミュニティガーデンの中でも、ニューヨークでの流行の最先端はキッチンガーデンだそうです。作って食べることも花と緑のまちづくりを進める方法の一つです。

鈴木
さん

建物を設計する時、僕の場合は植物や庭が好きだから最初のスケッチから組み込みます。でも建築に携わっている人間の多くは動植物に得手ではありません。北海道は郊外に行くと住宅の緑が貧しいと感じます。建物を建てることでギリギリなので緑が少ないのだと思います。住む人が強く望むことで、建築に関わる人も、技術や知識を深めていき、まちの緑が豊かになると思います。



8割くらいがちょうどいい

狩野
さん

私たちは年々年を重ねていきます。今は100%の力が出せても、翌年膝や腰が痛くなるかもしれません。家族の介護などで生活パターンが変わることもありえます。「もうちょっとできるんだよね」というくらい、8割くらいでセーブして、細く長く活動が続けるのがいいと思います。自分がエンジンフル回転すると、スローペースで運転する人にイライラすることもあります。そういう気持ちにならないよう、ゆとりを持つことが大切です。

被災地支援とガーデニング

梅木
さん

被災地の花の仲間に「必要になったら言って」と伝えておき、トマトの苗を準備しました。6月になり、仮設住宅に入る頃にリクエストが来たので、トマトの苗を送りました。9月の様子を見に行くと、コミュニティが育っている仮設住宅では緑もりもりでした。トマトが終わった後は、空いたプランターに球根やパンジーを植えて各戸に配り、一人暮らしの方が水やりなどのために外に出るようにしたいと聞きました。花の一株がコミュニティづくりの役に立つとわかりました。



コーディネーター

宮内
泰介
さん

津波でたくさん人や家が被害にあった石巻市では、一時避難していた人が戻ってきて、仮設住宅などに住んでいます。そこでは、おじいちゃんおばあちゃんが小さな畑をつくって、自家用の食べものや花を植えています。心の張りにもなるし、生活のリズムにもなっています。

花と緑の豊かさ、暮らしの豊かさ

鈴木
さん

「イコロの森」に関わって8年ほどですが、時間が経つごとに様々な発見があります。北海道には身近な自然やフィールドがたくさんあります。植物など成長していくものに接することで感受性が育まれ、暮らしの豊かさにもつながると思います。

梅木
さん

動くもの、成長するものに触れることは、幸せなことです。園芸の生育が必要とされていますが、小さな営みでも、土に触って、タネを蒔いて、花を切って、香りを嗅いで、食べて、土に戻すことを身近にやっていくのが今の生活にはとても大切です。それが出来ている北海道は国民総幸福1位になっていいと思います。北海道の住みやすさは43番目といわれていますが返上したいです。

参加者の声～アンケートから

- ・活動実践と具体例をまじえた話で良かったです。
- ・ガーデニングは地域の縁づくりですね。
- ・建築と自然、庭のつながりなど楽しかったです。
- ・震災の時でも植物が力を与えるというのは嬉しかったです。
- ・各人がガーデニングをはじめることにより、町内会、市内、北海道が良くなるという素晴らしい話を聞けました。

さっぽろ花と緑のまちづくりフォーラム 2011

ガーデン収穫祭～交流・体験・展示コーナー～は大盛況でした！

EMボカシ紹介コーナー

コーナーを風船で飾ったり、お揃いのハッピを着ていたり、EMボカシ紹介コーナーはお祭りのような雰囲気でした。たくさんの人たちが、EMボカシについての質問をしたり、匂いを試す体験をしたりと大にぎわいでした。



クラフト体験コーナー



リースづくりが大人気でした。材料は、赤い木の実や松ぼっくり、緑色の針葉樹の葉など、どれを使うか迷ってしまうほどでした。また、木片を使ったクラフトでは組み合わせを考えながら、独創的な作品を作ることができました。

花と緑のボランティア団体紹介ブース



園芸療法“ぐり～んの会”、秋桜（コスモス）、北の沢コミュニティガーデン みんなの丘サポーターズの活動をご紹介します。

ガーデンパネル展



ボランティア団体の活動や、個人のお庭等の72点の写真を展示しました。

花と緑のアート・クラフト展



イラスト
鈴木 のり子さん



クラフト
豊平公園花とハーブの会



押し花、レカンフラワー
淡川 幸子さん



深雪アートフラワー
高松 恵美子さん

パネリストとの交流コーナー



梅木あゆみさんとつくるクリスマスキャンドルアレンジ

狩野亜砂乃さんと話そう
美味しいハーブづくり＆ハーブの効能



鈴木敏司さんと話そう
クリスマスツリーで森づくり＠イコロの森

